

私たちは忘れない東日本大震災

女性たちのフォトボイス展

あの日からの11年が示すもの

(写真と声)



東日本大震災で被災した女性たちが、写真と「声(メッセージ)」を通して、被災後の生活や地域の課題を記録・発信する活動「フォトボイス」。災害対応や防災にも提言しています。



声

メッセージ

放射能から離れて
のびのびと遊ぶ子どもたち

夏休みの間だけでも放射能から離れさせたいと、子どもたちのハワイ保養プロジェクトに参加した。福島で海には入れなかった子どもたちは、海水浴やハイキングなど思い切り楽しそうだった。私自身の不安な心も少し落ち着いた。しかし、震災がなければ海外に避難する必要もなかったので、少し悔しさもあった。

みゆ

ハワイ島 2015年8月撮影

入場無料

2022年 **3月8日(火)～13日(日)**

10:30～17:00(最終日～16:00)

市民ギャラリー栄 第3展示室

(中区役所／栄サンシティビル7階)

主催:公益財団法人名古屋YWCA

東日本大震災被災者支援活動3・11つながるプロジェクト

協力:NPO法人フォトボイス・プロジェクト

賛同団体:NPO法人 被災者応援 愛知ボランティアセンター

生活協同組合コープあいち

NPO法人レスキューストックヤード

社会福祉法人名古屋キリスト教社会館



声

メッセージ

津波時の避難塔

住宅地に立つ津波時の避難塔。

2階までは津波をサラリと
受けて奥に流します。

災害時物資は4階に置いてあるそうです。
安価でよい対策です。

仙台のY

宮城県石巻市 2018年8月撮影

【フォトボイスとは】

1990年代初めにアメリカで開発された手法。社会的発言力の弱い立場の人々が自ら心情や社会の課題などを撮影し、「声」として撮影者のメッセージもつくる。声の発信や課題解決のために有効な手法として海外で広く実現されており、東日本大震災の女性支援に応用している。

新型コロナウイルスの感染拡大状況により中止になる場合があります